

ふくしまの経験から見えた 有機農業の可能性

脱サラ・農家での農業修業を経て、会津の山村へ移住して21年。有機農業（稲作、野菜、採卵鶏）で自立し、江戸時代から続く水路を守り、原発事故に対峙しつつ地域社会の担い手として活躍する浅見彰宏さんの思い・暮らし・活動などをお話しいたします。

浅見彰宏氏プロフィール

1969年3月千葉県生まれ。1991年3月上智大学文学部卒業。1991年4月～95年6月鉄鋼メーカー勤務。1995年7月～96年6月埼玉県小川町の霜里農場で有機農業研修。1996年7月福島県山都町（現・喜多方市）へ移住。現在、は地域循環にこだわった有機農業（稲作、野菜、採卵鶏）の小規模な有畜複合経営）に従事。福島県有機農業ネットワーク理事長。



日時 2017年2月26日(日)

場所 佐野市城北地区公民館

住所 栃木県佐野市堀米町 1173

12:50～13:50 種苗交換会 詳しくは裏面をごらんください。

14:00～15:30 浅見彰宏氏講演「ふくしまの経験から見えた有機農業の可能性」

15:40～16:40 有機農業ネットワークとちぎ総会

参加費 500円 有機農業ネットワークとちぎの会員は 300円

主催 有機農業ネットワークとちぎ

問い合わせ先 有機農業ネットワークとちぎ事務局 関塚学

電話・ファクス 0283-87-0536 電子メール sekidukamanabu@yahoo.co.jp

種苗交換会の手順

毎年恒例の「種苗交換会」。栃木の風土にあった品種の作出、種についての情報交換などを行うことを目的に行っています。自家採種した在来種・固定種・F1から選抜して、ある程度固定したものなどをお持ちの方、少量でもよいのでご提供下さい。

なお、種苗は有料とし、提供者に一袋 200 円を協力金として支払う形をとらせていただきますので、ご理解をお願いいたします。+

提供者の方へ

1. 野菜種に限らず、穀類・豆類・イモ類・果樹苗などで自家採種した固定種・在来種やF1から選抜した優良なもの
2. 種苗は、封筒などに小分けし、提供者名と品種名を記入して当日、持参してください
3. 別紙「自家繁殖カード」を記入し、「栽培結果報告書」は無記入のまま、小分けした袋数+事務局提出用 1 枚をコピーし当日、持参してください

交換会の手順

種苗を持参した人はその種苗について説明を行う



種苗を持参した人同士の交換



種苗の余った分を持参していない人にお分けする



作付け結果の集約・・・作付け後の結果を「栽培結果報告書」に記入し事務局にファックスする

種苗を持ち帰る人は・・・

各品種につき一袋

どの種を誰が持ち帰ったか把握するためにその場で所定の用紙に氏名等を記入し、一袋につき 200 円を支払う

◎持ち帰った種苗は、自家栽培するとともに種苗の自家採種、繁殖に努めてください。

◎交換する種苗についての品質その他の保証はいたしかねます。

昨年種苗交換会に参加した方へ

昨年の種苗交換会で種を持ち帰った人は「栽培結果報告書」の記入をお願いいたします。

用紙は昨年お渡ししてあるものをお使いください。記入して、当日会場にお持ちください。

種苗交換会・連絡先

小林裕次 Tel0280 - 57 - 0824 関塚学 Tel0283-87-0536